

## 令和3年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

生徒一人一人の実態を把握し、「わかる授業」の充実、成功体験を積み重ね「自己肯定感」を育む活動の充実は、本校の学校計画の根幹である。それを踏まえて、教務部・福祉教養科による学習活動、生徒指導・保健厚生部による学校生活の充実、特活部による委員会活動の活性化の5点を重点課題に絞り、評価を受けた。

重点課題①：生徒の実態把握による適切な受講登録とわかる授業の確立

重点課題②：社会福祉に対する興味・関心の向上と基本的知識・技能の習得、及び思いやりの心の育成

重点課題③：基本的生活習慣の確立

重点課題④：睡眠を中心とした生活習慣の見直しと改善

重点課題⑤：委員会活動の活性化

重点課題の評価は、①・⑤がA（達成）、③・④がC（現状維持）、②がD（現状より悪くなった）であった。評価に差があったが取り組んだことに対して、評価をいただくとともに、いくつかの課題も指摘され指導・助言をいただいた。

①目標数値はパーセントではなく、人数でも良いのではないのか。

②コロナ禍ではあるが、里孫活動を継続して行ってほしい。

③生徒自身による自己評価も良いが、友達同士の他者評価も利用してみてもどうか。

④「睡眠」に関することは昨年からの継続である。今回の取り組みで得たことを踏まえて生徒への声かけをして欲しい。また、気になる生徒については、スクールカウンセラーに任せるだけでなく、教職員がチームを作って声かけすることも1つの方法である。

⑤対話的活動を通して生徒の活動意欲を高めて欲しい。今後も生徒からの新たなアイデアを期待する。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

学校評議員からは、学校の取り組みについて今後の継続に向けた観点からの評価を受けた。今後の取り組みについては、新学習指導要領に基づいた指導方法やICT機器活用法の充実のための研修会を開催する。福祉施設との交流を継続していくための工夫を教職員と生徒でアイデアを出して取り組んでいく。生徒が主体的に取り組める行事の開催するため、委員会活動をより一層充実させる。目標設定とその評価方法等については従来の形式に捕らわれず、新たな工夫をしていくことなどに取り組んでいく。